

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200778		
法人名	有限会社 ベストケア・ベル		
事業所名	グループホーム・ベルⅡ		
所在地	札幌市北区屯田7条6丁目3-15		
自己評価作成日	令和7年10月	評価結果市町村受理日	令和7年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvsoyoCd=0170200778-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍によって、それまで行われていた外部との接触や外部の研修を取り戻したいと、考えており積極的に研修などを受講するように努めている。集まりに関しては状況に応じて行うようにしている。判断の理由は感染状況が主な理由で、リスクを量ったうえ判断し参加するように勧めている。その他、職員の補充は未だ遅れているが、継続して職員の応募を求める。余裕をもってイベントなどを開催し活気を取り戻そうとしている。これまで、活性化を求めてアクティビティーなどを強化してきたが、職員数減少に加え老化など様々な障害を抱えている現状であっても、元々の姿に戻したいと奮起し始めている。災害対応について、近年重要案件として考えており、非常時持出袋を用意し、緊急時の対応に努めている。内容物について3月の東北震災日・9月の北海道震災日に合わせて点検するようにしており都度期限のある物や不足品については順次用意している。災害緊急対応本の職員間で回し読みを行い有事に少しでも効果のある対応を出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から25年目を迎える「グループホーム・ベルⅡ」は最寄りのバス停に近い利便性の高い閑静な住宅街に立地する1ユニットの事業所である。建物は2階建てで2階がグループホームとなっている。近隣には保育園や小学校、高校、神社、商業施設等もあり、保育園園児との季節行事での交流や散歩時の挨拶は、利用者の楽しみとなっている。日々の支援においては、ケアプランにそった支援記録が丁寧に記載されている。毎月発行の「ベルⅡ通信」では写真が掲載され、個別近状報告を通じて家族との連携を図っている。一方、法人代表の交代や施設長の勇退、協力医療機関や訪問看護事業所の変更と、さらに利用者複数名の看取りを含めた入退去が頻回にあったことから、従来の行事や活動の実施は難しかったが、そのような中でも、新しく利用を開始した利用者へ適切な生活支援を行うことで、医師と相談の上で薬を減らすことが可能となるなど、理念にある「穏やかな生活の支援」を念頭に取り組んでいる。環境の変化が続いた1年であったが、理念に基づき管理者は今後、2人部屋利用の利用者夫婦を含む9名が新しい生活に馴染み、家族や地域住民とのつながりやふれあいを深める構想を持ち、「ベルⅡ」らしい暮らしづくりを推進していく思いである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して、毎週月曜日朝の申し継ぎ後、全員で合唱している。	2項目からなる事業所独自の理念は地域密着型サービスを意識した文言が含まれ、玄関や事務所に掲示し、職員のネームプレート裏面にも表記している。毎週月曜日の申し送り時に唱和し、再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のこども園の園児と行事ごとに交流している。	町内会に加入し、地域の情報を得ている。地域の清掃や資源回収に協力している。地域の祭りやボランティアの提案もあったが、利用者の入退去が多数あり、参加等実現できなかった。来年度は例年通り参加予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一度の運営推進会議には地域住民に声を掛け認知症への理解を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度会議を開催し利用者の家族様にも参加して貰いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の方、複数の利用者家族、知見者の出席がある。会議は事業所状況や活動報告等、情報提供が充実し意見交換が行われている。議事録は全家族に送付している。	介護関係等役立つ情報を会議のテーマに設定し、広く伝えていきたいとの意向があるので、その実現に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の包括センター職員にも会議に参加を求め意見を頂戴している。	管理者がメールで各種報告を行っている。運営上の助言等は必要に応じて担当部署へ電話連絡をし協力関係ができています。介護認定調査時等、定期的に連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止となる基本11の項目は職員が見える場所に掲げている。	指針を整備し、「身体拘束廃止推進委員会」をフロア会議の中で2か月ごとに開催している。研修後は職員各自が報告書を作成している。鍵は夜間のみ施錠し、日中は見守りで対応している。	今後、2回目の研修を予定しているので、「身体拘束廃止・防止の対象となる行為」11項目の再確認を含めて行うことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	常にフロア会議でも取り上げ確認している。外部の講義研修には積極的に参加している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に説明をして同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二カ月に一度運営推進会議の中や面会に来た時に家族の意見や要望を言える機会を設けている。	運営推進会議や面会時に意向を聞く機会を設けている。毎月「ベルⅡ通信」にて写真付きで個人の様子を伝えている。SNSを使用し連絡や意向の収集を行っている。聞き取った情報は管理日誌に記入し職員間で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より会議の中だけではなく希望や意見を出し合える機会を設けている。	職員意見は日常業務の中で聞き取っている。職員意見箱も使用し、意見、提案等が言いやすい環境になっている。有給休暇の取得も可能となっており、職員は得意分野で役割や係を担っている。自己評価表作成にも携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今、一番の課題は慢性的な職員不足である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の強化やフロア会議の中でケアの確認を行っている。外部研修についても案内をして受講しやすい環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや交流会には参加できるようにしている。区域内の管理者連絡会にも積極的に参加協力をして情報を得たり発信したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、安心した生活が送れるように不安や困難な事柄に対して早期に対応し、利用者様のニーズを十分に聞き入れ信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を始めるにあたり利用者様、家族様の方の意見(困難事項・不安要素)を十分に聞き、ニーズを引き出す努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況を見極め何が必要か、医療機関・他の専門機関などの意見も参考にし、支援とサービスを引き出す努力を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性や生活歴を大切に、ご自分で出来る事は可能な限り本人にしていたいただき出来ない事はサポートし共に寄り添って暮らしていける信頼関係を作り努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が安心して生活できるよう家族様の近況報告を行い、時には家族様の協力を得て、ご本人をサポート出来る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のこれまでの生活歴を傾聴し、ご本人の希望に沿って外出支援や友達・知人等の面会を行い馴染みの人や場所が途切れない様な人間関係を続けられるよう支援に努めている。親類の結婚式への出席や、ご家族様と墓参へ出向く等、これまでの培ってきた関係が途切れるこのない様、取組んでいる。	家族や親族の訪問があり、電話の取り次ぎも行っている。絵の得意な管理者が、利用者の思い出の場所や思い出の物など関連のある絵を描き、高齢者の心理療法の一つである回想法を取り入れ、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合えるように努めている。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了後でも必要に応じ相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、情報の共有をしている。モニタリングの中でご本人・ご家族の意向や思いを聞き、ケアプランを作成している。入居時の面談で本人や家族から身体状況や好きなもの、趣味、以降などを聞きアセスメントシートに記載し思いの把握につなげている。	日常の会話や表情から思いや意向を把握している。利用者の入退去が多数あり、今後様々な場面や会話の中で、新しい情報が得られた場合は、管理日誌に記録し新たな情報を職員間で共有し、ケアプランに反映できるよう実行していく予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し個々の把握に努めている。ご家族の面会時やモニタリング時にも聞き取りを行うなどこれまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を把握し、そのたびに職員間で情報を共有し、サービス記録に記入するなどして現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告・連絡・相談を行い、チームケアとしてケアカンファレンスを行い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。アセスメントを行い、本人や家族の意向を確認して介護計画を作成している。その状況に応じた計画で変化があった場合には直ぐに対応出来るようにしている。	担当職員を中心に3か月ごとにモニタリングを行っている。項目ごとの課題分析とモニタリングシートを基に会議で評価を行い、3～6か月ごとに、本人、家族の意向を聞き取り介護計画を作成している。日々の個人簿の下部にケアプランにそった記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス記録に内容の実践・取組・気づきなどを記入し、職員同志で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人一人に合ったサービスの提供を心掛け、マニュアルに縛られず柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺に保育園・小中学校などの教育機関が多くある。特に保育園との交流は活発でプレゼント交換・お遊戯披露などを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と毎週の訪問看護を行っている。必要に応じて希望があれば、外来受診も行っている。	全員が協力医の月2回の往診を受けている。専門科受診も協力医の指示を仰ぐことができる。外来受診は家族の協力も得ながら、職員が同行支援している。「医療訪問時受け出し情報」で利用者ごとに管理、共有している。	

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の事前状況シートを活用し、変化の伝え漏れを防いでいる。結果も記載できるので経過観察についても細かく伝える事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携体制を利用し、状況に合わせて対応出来るように以前より対応窓口が広がっている。入退院についても看護ステーション若しくは、クリニックに電話連絡で相談する事で即応が可能になった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当初からご家族にも説明し、行えるようにしている。また、Drとも相談・報告・連絡を即時出来る様になっており、職員にも周知し行えるようにしている。	利用開始時に重度化対応、看取り指針にそって説明し、同意を得ている。協力医から終末期と診断された場合は、本人、家族の意向にそい、医師とも連携を図り、今年度も複数名の看取りを行っている。看取り研修を行い、看取り後の振り返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的(年間計画)に定めた日に、可能な限り研修を実施している。条例で定められた回数以上に行っており、研修の重要性は、職員全員に理解を求めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を基に2回行っている。それ以外にBCP関連の研修を数多く実施している。	年2回火災避難訓練、地震避難訓練を夜間想定で行っている。毛布を使用した救助訓練を行うなど実践的な訓練を行っている。備蓄品も確保している。	運営推進会議には地域の方も出席しているので、避難訓練への参加が得られるよう声かけを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の私有物預かりや私物には頭文字を統一して職員にはわかる様に配慮している。個人の見出しにも部屋番号を表示。申し継ぎの時には部屋番号で説明するなどして配慮している。	呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、希望があれば、より親しみを込めた呼び方をする場合もある。言葉かけや対応に問題がないか日々の会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人に沿った生活になるように支援している。自己決定出来る人・出来ない人に限らず必ず声かけを行い反応を見て、他複数名の職員の意見をもって判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々アクティビティーに繋がることはないか考えつつ、強制するのではなく誘われなくても、興味を持ってもらえる様な事を具体化していきける努力をしている。本人がしたい様にして貰い拘束はしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ごく自然な生活を送れるように支援している。但し、重ね着や、そぐわない服装の時は声掛けし対応している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナを機にキッチン周りのお手伝いなどは注視していたが、頃合いをみて少しずつお手伝いを再開しているが、まだ十分とは言えない。	品数の豊富な独自の献立を作り、食事を楽しめるようにしている。季節感を感じられる食材を使っている。後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厚生労働省で推奨している品目を重視し、確実にとは言えないが目標とし実行している。また、理念にも唱っているが、食の重要性を常に考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	衛生保持に対しては、常に声がけを行い、その時点で行って貰えなくても、時間と対応者を変えて促し行って貰っている。出来なくなった方には職員が対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力無駄使いのないように心掛けている。定期的にトイレ誘導を実施している。素振りを観察し、こちらで察し誘導し促している。	全員の個人簿に排泄状況を記録している。自力でトイレに行ける方が3割ほどおり、その他の方は誘導や介助によりトイレで排泄している。夜間はベッド上で排泄用品を交換する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のパターンは職員間で共有し排便促進茶を優先的に使用し様子を見ながら、医療連携先の相談し下剤の調整をして施行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴パターンがあり、声掛けし入浴を行っている。皆一様に楽しみにしており、職員と会話しながら良い時間を過ごして貰っている。	各利用者が週2回を目処に入浴している。午後の時間帯で、月曜、火曜、木曜、金曜を入浴日としているが、他の曜日に入ることもある。同性介助とし、入浴時に職員との会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状況に応じて、居室で休んで貰うなどもするが本人が望む事があれば、それに沿った対応をしている。但し、無理な場合もあって、その時は代替案を講じるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	9月に誤薬があり、それについて研修と対応検討を行った。薬を準備後の置く場所の徹底や、チェックする担当など細かく取り決め実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の体操や運動的なレクリエーションは高い比率で参加していただいているが、マンネリ化を防ぐ為に不定期ではあるが、イベントを企画している。食のイベント・運動系のイベントなど頭を悩ませ実施に苦慮している。		

グループホーム・ベルⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中散歩に出掛け楽しみにされていましたが、今年は猛暑により、思うように散歩に出かける機会が激減してしまった。折を見て実施するようにしている。職員不足はほぼ慢性化しており、都合に合わせる事は難しくなったので、ご家族に対し外出の機会を設けていただきたいと打診している。その一方感染症が水面下では、新型が次々と発生している為に中々ご家族からの支援がいただけない状態である。	日常的に周辺を散歩している。神社や保育園のあたりを散歩し、保育園の前では園児に手を振っている。家族と近くの店舗に買い物に行く方もいる。最近では外出行事が減っているが、計画的に実施していきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は入居の時にお断りしており、必要に応じてご家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じている。電話連絡の際など電話に出て貰ったりもしている。手紙は現在、書ける状況になく行っていないが、月末の通信には職員から様子を伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目につくところに時計・カレンダーを設置し、現在を知り得るようにしている。POPを季節ごとに変えて、季節の情報を伝えている。	共用空間は大きな居間があり、ベランダに面して大きな窓がある。職員がキッチンから全体を見渡すことができる。食卓やソファを居心地よく過ごせるように配置している。壁には手作りの装飾があり、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの人間関係に配慮し、時は大胆な席替えをしたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は、家庭の様に調度品を置いたりしていたが、現在は居室内での転倒が増えており、ケガに繋がる物や事故を誘発してしまいそうなものは全て撤去している。	居室はベッドが備え付けで、タンスや戸棚、鏡台など、馴染みの家具を持ち込んでいる方もいる。2階のため、どの部屋も光が差し込み明るい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それに相違はありませんが、その人らしい生活に支援を惜まず、諦めず対応をする様、職員間で情報など共有し、少しでも理想に近くなるよう努力している。		